

# 上智大学アジア文化研究所図書室

川島緑・赤堀雅幸・寺田勇文

一九八二年に設立された上智大学アジア文化研究所は、東南アジア、南アジア、中東地域の歴史、宗教、文化、社会、生活様式などの総合的研究に取り組み、国際的な調査研究活動を展開している。アジア文化研究所図書室は中央図書館四階にあり、現在、約一万八〇〇冊の図書資料を所蔵している。同図書室は、所員のほか、上智大学の教職員と学生に利用されている。それ以外の方の利用にあたっては所長の許可が必要なので、研究所に問い合わせていただきたい。

連絡先

郵便番号 〇二一八五五四

東京都千代田区紀尾井町七一

上智大学アジア文化研究所

電話 〇三―三三二八―三六九七

FAX 〇三―三三三八―三六九〇

<http://wwwinfo.sophia.ac.jp/iacl/>

## ●東南アジア・南アジア

アジア文化研究所図書室は、所員の専門分野に関する図書資料や、外国語学部アジ

ア文化副専攻、および、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻での教育に必要な図書資料を収集してきた。東南アジアに関しては、現在、およそ一万六〇〇冊の図書が所蔵されている。これらには、日本語、欧語の他、インドネシア語（約一三〇〇冊）、タイ語（約六〇〇冊）をはじめとし、フィリピン語、マレー語、ビルマ語、カンボジア語、ベトナム語、ラオ語など、合計約二七〇〇冊の東南アジア諸言語の図書が含まれている。所蔵資料の分野は

歴史学、文化人類学、考古学、社会学、政治学、文学など多岐にわたる。南アジアに関しては、歴史、宗教、社会、文学、政治などの分野を中心として、約一八〇〇冊の図書が所蔵されている。研究所では、アジアに関して学び始めた学部学生にとって必要な入門書、概説書や映像資料の体系的収集にも力を入れている。所蔵雑誌の中には、『ダンサラン・クォーターリー』、『ミンダナオ・ジャーナル』（いずれもミンダナオ島マラウイ市で発行）など、日本では入手しにくい学術雑誌も含まれている。

中央図書館にも東南アジアや南アジアに

関する多数の図書資料が分野別に所蔵されており、これらとあわせると、アジアに関する研究教育に必要な基本的図書資料のほとんどをカバーすることができるといえる。関連資料として、中央図書館八階にある「キリシタン文庫」には、中国をはじめとするアジア諸国でのイエズス会の布教に関する図書資料が所蔵されており、キリスト教研究者に利用されている。

（かわしま みどり／上智大学外国語学部教授）

## ●中東

アジア文化研究所図書室は、アラビア語の書籍一七〇〇冊を中心にペルシア語、トルコ語等の原書その他、日欧語による中東関連の書籍総数五〇〇冊以上を所蔵している。その数は、大規模な中東関連資料を所蔵するいくつかの国立の大学や研究所などに比べると多いとはいえないが、中央図書館に所蔵されている各国語図書とあわせるならば、中東研究の一通りの分野について、基本的な研究教育には十分すぎる以上の蔵書がある。



上智大学アジア文化研究所図書室

研究所の活動に資するという本来の目的に沿って、所員が選書を行ってきた結果、所蔵資料の分野別は網羅的でなく、歴史学および政治学の分野にやや偏りを見せている。しかし、これは同時に、マグリブ史や内陸アジア史、アラブ近現代史など、特定の分野に関しては国内所蔵が他にないような図書をも、一定数有することにつながっている。

また、学部学生を読者とするような図書については、中央図書館に収集をまかせているが、研究所と深く関わって教育活動が展開されている大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻については、学生の用に供するために、専門的研究に必須の基礎文献、とくに書誌や事典などの収集が進められ、教育的配慮が近年強められている。『エンサイクロペディア・イスラミカ』や『インデクス・イスラミクス』など、学生個人では購入しがたい価格のものを中心に、電子媒体資料の充実が図られているのも、最近の特色である。

研究所および地域研究専攻が、一九九七年以降、イスラーム地域研究、COEなど複数の大規模教育研究プログラムの拠点となり、中東イスラーム研究がそのなかで一定の重要性を有してきたことから、図書の収集は加速している。今後は、国内外の研究機関・書肆などの連携により、自前のデータベース、資料などを作成することが、重要な課題であると認識されており、二〇

〇六年度よりその取り組みも開始されている。

(あかほり まさゆき／上智大学外国語学部助教)

### ●関連資料—上智大学中央図書館所蔵「ガルシア・コレクシオン」

「ガルシア・コレクシオン」は、フィリピンに関する文献、定期刊行物、日本占領期フィリピンの一次史料など五三二〇タイトル、六九五一点からなる。フィリピン人書誌学者であったマウロ・ガルシア氏（一九〇六—一九八二年）が生前に収集したものである。氏は一九三〇年にフィリピン大学教育学部（図書館学専攻）を卒業、政府科学局司書、フィリピン・コモンウェルス政府大統領府司書、日本占領下の一九四二—一九四五年以後はフィリピン行政委員会（比島行政府）、戦後は一九五〇年までフィリピン共和国大統領府付の司書として勤務し、戦後は在野のフィリピン史研究者として活躍した。

本コレクシオンの特徴は、①一人の優れた書誌学者、コレクターによって長期間にわたり体系的に集められたもの、②コレクターのガルシア氏自身が幅広い関心を持つ研究者であったことから、単行本以外に各種の学会や大学・研究所の出版物もコレクシオンの範囲に含めている、③日本占領期（一九四二—四五年）のフィリピン行政委

員会関連の一次史料が多数含まれている、④フィリピンに関するあらゆる分野の文献が網羅されている点にある。文字通りあらゆる分野にわたっており、たとえば一九世紀のフィリピンのカトリック教会で使われていた祈祷書、二〇世紀前半の観光案内書や自動車のルート地図なども含まれている。フィリピンの国民英雄ホセ・リサールに関する書物（いわゆるリサリアーナ）も数百点以上が集められている。一九世紀後半以後、一九七〇年代までのフィリピンについて調査、研究を進める際には、まず参照すべきコレクシオンであろう。

上智大学図書館のオンライン検索システム（OPAC）に登録されているので、書名、著者名が不明でもキーワードで検索可能である。図書館係員による出納制のため、利用する場合はOPACまたは貸出カウンターにある目録で請求記号等を調べ、貸出カウンターで利用申込票を記入した上で請求する必要がある。館内閲覧のみ可能で、準貴重資料のためコピーはできない。

(てらだ たけふみ／上智大学外国語学部教授)